

経営比較分析表（令和5年度決算）

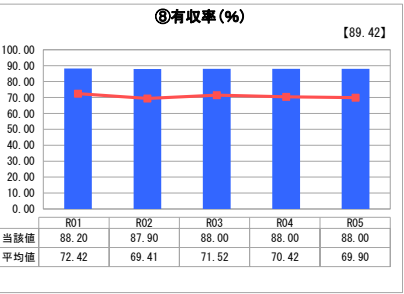
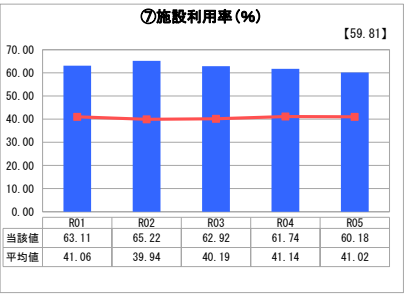
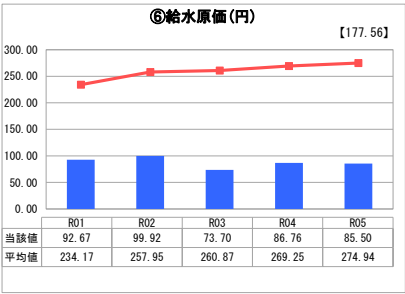
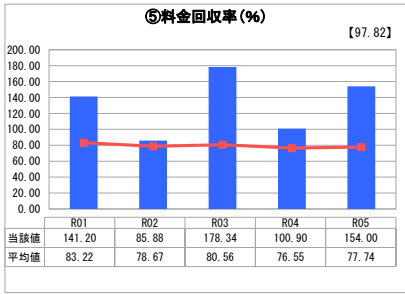
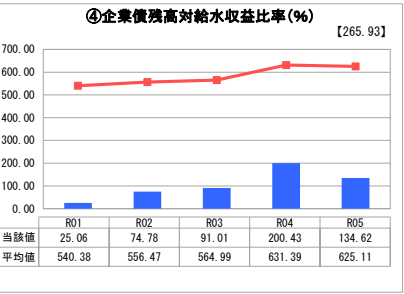
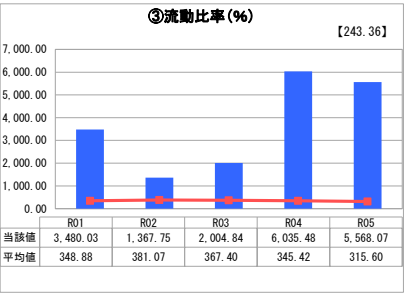
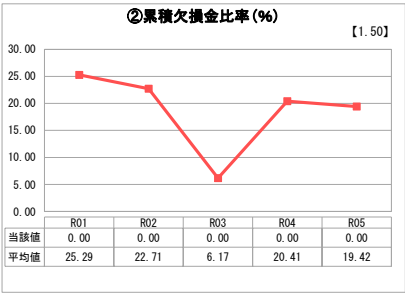
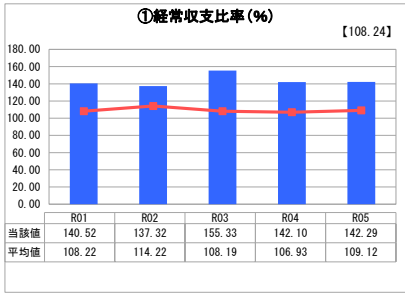
岡山県 和気町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A9	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	88.88	35.50	2,612	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
13,151	144.21	91.19
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
4,613	4.02	1,147.51

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については、人口減による給水人口の減少により給水収益が減少したが、修繕費等が減少したことで、前年度より微増した。

流動比率については、未払金の増額により、前年度から減少となった。比率も100%を上回っているので健全性が保たれている。

企業債務高対給水収益比率については、令和2年度から起債事業が増加したことが、上昇の要因となった。また、令和4年度は水量料金を減免したことにより増加している。類似団体より低い理由として、投資規模が適正であることがあげられる。

料金回収率は、令和2年度と4年度は水道料金を免除（4期5期の4か月）したことにより、料金収入は減少しているが、令和5年度は3年度に比べ給水原価が高くなったため、料金回収率が下がった。

給水原価については、令和5年度では修繕費等が減額したことで給水原価が下がった。類似団体と比べて、低い水準であるが、今後も更なる適正な維持管理に努めていく。

施設利用率については、企業への安定した給水により概ね横ばいで推移しているが、人口減に伴い微減少がみられる。

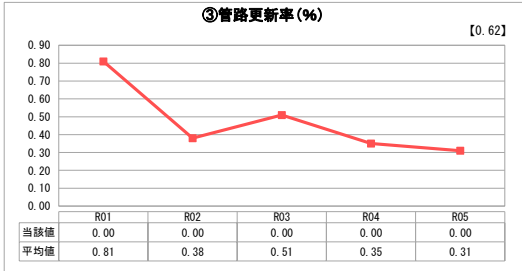
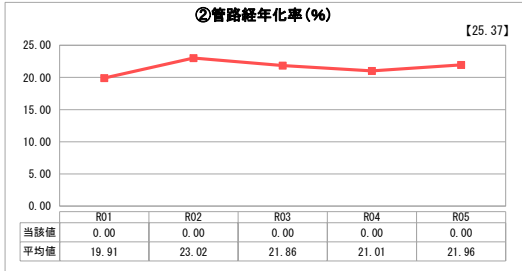
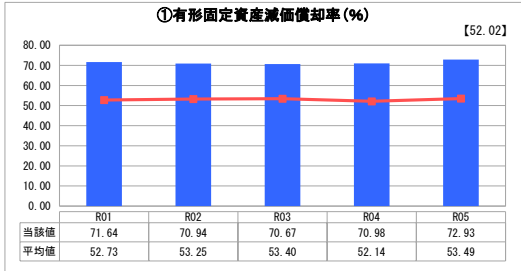
有収率については、近年、ほぼ横ばいで推移している。類似団体より高い水準で推移しており、今後も適正な管理に努めたい。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率については、近年、横ばいで推移しており、類似団体に比べて、高い数値となっている。施設の法定耐用年数が、近づいている施設もあるので、今後は、計画的な施設更新を考えていく。

管路経年劣化及び管路更新率については、低い水準になっているが、保有資産の計画的な更新を進めていく必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括

有形固定資産については、近年、横ばいで推移しており、類似団体に比べて、高い数値となっている。施設の法定耐用年数が、近づいている施設もあるので、今後は、計画的な施設更新を考えていく。

経営比較分析表（令和5年度決算）

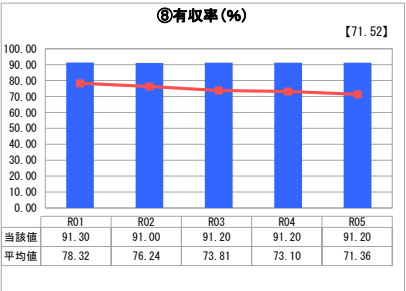
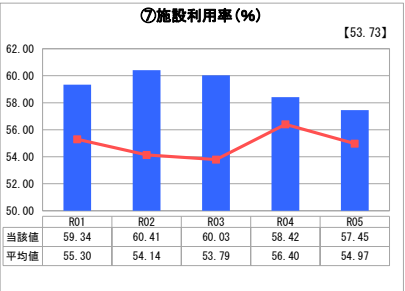
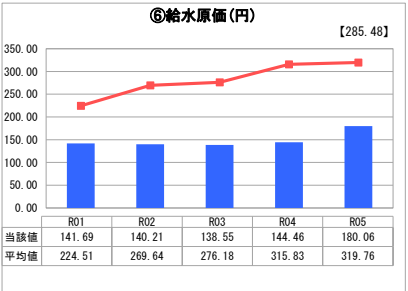
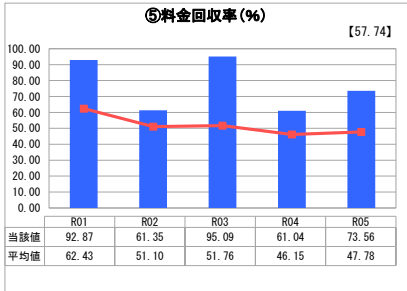
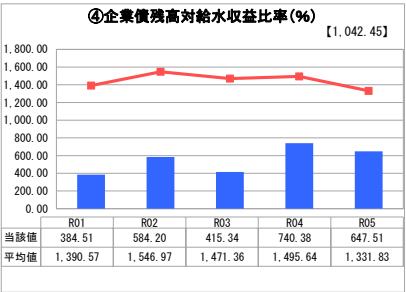
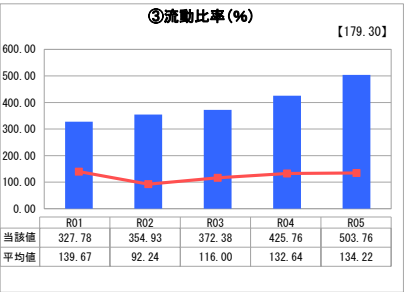
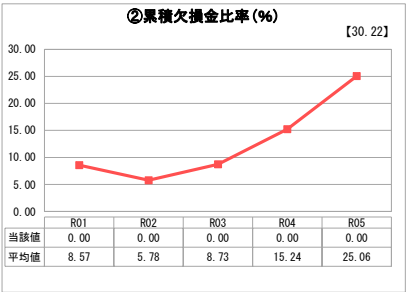
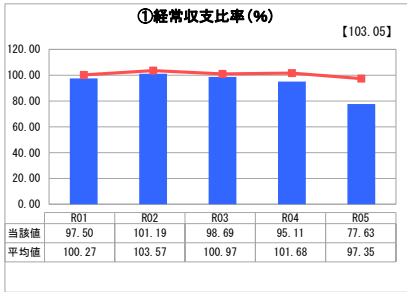
岡山県 和気町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	56.56	60.62	2,612	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
13,151	144.21	91.19
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
7,877	27.11	290.56

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

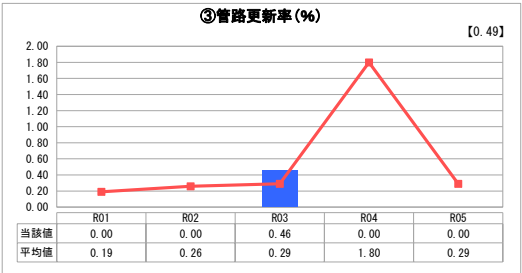
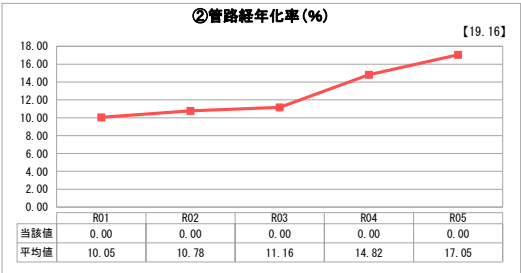
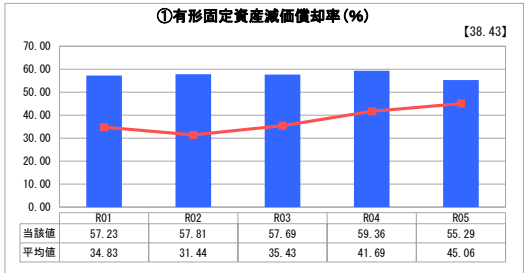
1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については、修繕費等の増加により減少している。
流動比率については、前年度から未収金の増額により増加することになった。現状では、類似団体に比べ高い数値で推移している。
企業債残高対給水収益比率については、類似団体とは低い傾向にあるが、企業債を財源とした施設の更新を行ったため、数値が上昇している。また、令和4年度は水道料金を減免したことにより増加している。
料金回収率については、令和2年度と4年度は水道料金を免除（4期5期の4か月）したことにより、料金収入は減少しているが、令和5年度は3年度に比べ給水原価が高くなったため、料金回収率が下がった。
給水原価については、令和5年度では修繕費等が増加したことにより上昇する要因となった。類似団体と比べて、低い水準であるが、今後も更なる適正な維持管理に努めていく。
施設利用率については、ほぼ横ばいで推移しているが、将来の人口減少等に踏まえ、施設の統廃合等の検討を実施していく。
有収率については、近年、横ばいで推移しており、今後も適正な管理に努めたい。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率については、近年、横ばいで推移しており、類似団体に比べて、高い数値となっている。施設の法定耐用年数が、近づいている施設もあるので、今後は、計画的な施設更新を考えている。
管路経年劣化及び管路更新率については、過去数年間平均してみると低水準で推移しているが、保有資産の計画的な更新を進めていく必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括

経営の健全化に向けて、更なる維持管理の効率化で経費削減に努め、適正な料金改定を進める必要がある。また、施設の老朽化に備え、浄水・配水施設や管路等の計画的な更新を進め、健全な事業運営に努める。